

# 2024 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE

Round 1 岡山国際サーキット

apr GR86 GT

**apr**  
*Racing Constructor*

# 2024 AUTOBACS SUPER GT Round 1

開催地：岡山国際サーキット（岡山県）／3.703km

4月13日（予選）

天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：8500人

4月14日（決勝）

天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：15500人

## 予選でトラブル発生、決勝では追突され……。それでもつかんだ明るい未来

2024年のスーパーGTは、前身の全日本GT選手権から30周年を迎えた節目のシーズンであり、ルールにも大きな変更があった。環境問題の観点からタイヤの持ち込みを1セット削減、予選はQ1とQ2の合算タイム方式となり、Q1からQ2、決勝スタートまで同じ1セットのタイヤしか使うことができない。GT300においては、カーボンニュートラルフューエル(CNF)の『GTA R50』が導入され、安全性向上策として追加重量の搭載が義務付けられた。

30号車の『apr GR86 GT』においても“変化”がある。第1ドライバーの永井宏明選手は不動だが、第2ドライバーに2024年のFIA-F4チャンピオンである小林利徠斗選手を起用。ベテランの織戸学選手が第3ドライバーとして、ふたりを後方支援する。

2023年シーズンの入賞は第3戦鈴鹿での9位のみとなってしまった30号車だが、今季は新体制でポイントの上積み、Aシード権の奪取を目標とする。

### 公式練習 24位 4月13日(土)9:30～11:15

開幕戦岡山は週末を通して好天に恵まれた。だが、それは想定外の気候でもあった。公式練習が始まった9時30分時点で気温20度、路面温度26度という例年とは異なるコンディションだった。

30号車は持ち込んだタイヤの温度レンジとセットアップにミスマッチがあり、まずは経験豊富な永井選手がステアリングを握って修正を続けていくスタートになった。

永井選手は17周走行して小林選手に交代。公式練習開始から1時間弱が経過していた。ルーキーとはいえFIA-F4チャンピオンの走りに期待がかかる。しかし、なかなかタイムが上がらない。

これは後に判明したことだが、今季からはGT300車両もCNFを使用するようになり、ブローバイガスの大気放出量が増えたことが原因と考えられる。路面にブローバイガスが載って滑りやすい状況になっていたのだ。他車も永井選手も、スタートからおよそ40分を経過したところからタイムが上がらない傾向にあった。結果的に、永井選手が8周目に記録した1分28秒904が30号車のベストタイムとなり、24番手というリザルトで公式練習を終えることになった。



## 公式予選 4月13日(土)

Q1 A／－ 14:00～14:10

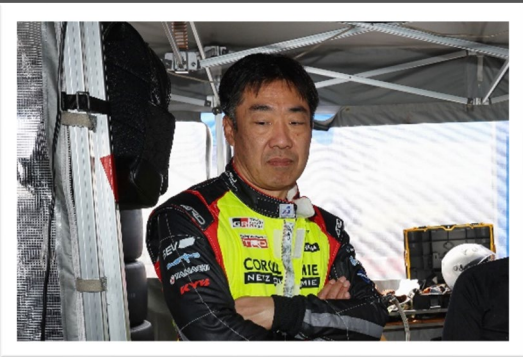
Q2 Gr.2／9位 14:53～15:03

公式練習でセッティングを詰め切ることができなかったが、その状況でも兆しを感じるセットアップで挑んだ公式予選。気温は27度、路面温度は36度まで上昇していた。

Q1 A組に振り分けられた30号車は小林選手が出走。しかし、まだウォームアップ中の計測3周目、エアシフターにトラブルが発生。パドルシフトが作動せず、4速ギヤでスタックしてしまった。ピットレーンに入るが4速では走行できずにエンジnstop。メカニックの手押しでガレージに戻った。

これにより予選通過基準タイムをクリアできず。約40分後のQ2グループ2が始まる前に症状を修復できたが、決勝はピットレーンスタートが確定していることもあり、永井選手はチェック走行に専念。3周だけ走り1分29秒937でグループ2の9番手タイムとなった。





## 永井 宏明選手

Q1でシフトにトラブルが出てしまいました。予選通過基準タイムの107% (1分32秒303)を超えられず、ピットレーンスタートが確定していたので、Q2ではチェック走行に専念しました。今年からQ2はユーズドタイヤでアタックすることになりましたが、そこはみなさんと同条件なので、そのなかでどれだけ頑張れるかだと思っています。



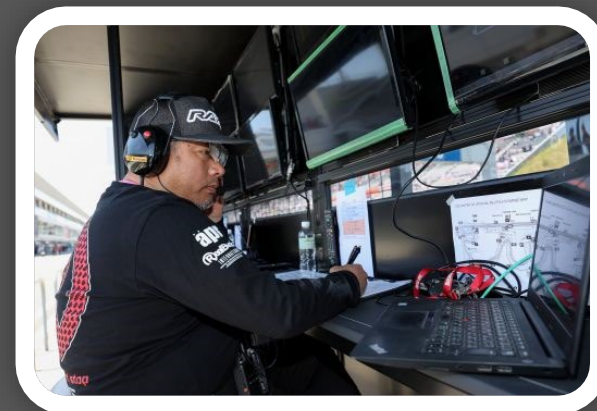
## 小林利徠斗選手

事前のテストを走って、僕の中ではある程度いけそうな手応えはありましたが、結果的にトラブルによってタイムを出しきれなかったのは残念です。僕はこれまでスプリントレースしか経験がなく、明日の決勝は非常に長くてGT500との混走にもなりますが、いろんな状況のなかでもちゃんと生き残れるレースをできるようにしたいです。



## 織戸学選手

この週末は想像以上に気温が高くて、持ち込んだタイヤ的に僕たちにはミスティクになってしまいましたね。小林選手にとってはデビュー戦でもあったのに、予選ではトラブルも出てしまいました。僕は今年、第3ドライバーというポジションですが、それを楽しんでいます。小林選手は走りの面では問題ないので、メンタル面のアドバイスをしていますね。



## 金曾裕人監督

公式練習では持ち込みのタイヤがいまいち合っておらず、セットアップで修正できたと思ったら路面が滑りやすくなってリセット。少し迷子な状況で挑んだ予選では、パドルシステムにトラブルが発生してしまいました。エアシフターのトラブルは過去に他チームでもときどき起きているので、早急に対策を進めていきたいですね。決勝は粘り強く走り切り、次戦につながるデータを取ります。

## 決勝レース(77周)／23位 4月14日(日)13:30～

スタート進行の直前に行われた20分間のウォームアップでは、まず永井選手、そして小林選手もドライブし、シフトに不具合がないか再確認。後方からの追い上げを期して、セットアップも変更した。

30号車は、GT300クラスがローリングスタートからコントロールラインを通過した後に、ピットレーンからスタート。当然出遅れるが、オープニングラップでアクシデントが多発し、セーフティカーが導入されたことでその差はなくなった。アクシデントを起因とする車両がピットインし、またスタートドライバーの永井選手のペースもよく、一時は22番手までポジションを上げる。

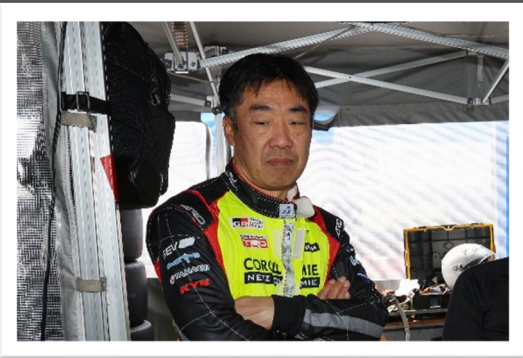
30号車にとっては順調なレース序盤と思われたが、12周目、接近戦を繰り広げる中で他車に追突されてしまう。30号車は右のリヤタイヤが裂け、白煙を出しながらピットに向かった。ここでのタイムロスにより、トップからは周回遅れになってしまう。

実質、入賞の権利を失ったことで、チームは戦略を切り替えることにした。ドライバー交代のミニマムで永井選手をピットに呼び戻し、デビュー戦となる小林選手の走行距離を伸ばすことにしたのだ。24周で永井選手はピットインし、若き期待のルーキーにステアリングを託す。

小林選手には「周回遅れになっているから他車の邪魔にならないようにしながら、スーパーGTを学ぶこと」を伝えた。30号車にとっての決勝中ベストラップは、永井選手が15周目に記録した1分29秒956で及ばなかったが、そこからゴールまでの49周を走りきりマイレージを稼ぐことができた。

今回は悔しい結果となってしまったが、「小林選手の経験値を稼げた」と、チームは前を向く。緊急ピットで最後尾に落ちながら、3つポジションを上げた23位でフィニッシュ。小林選手がここで学べたことは、第2戦以降で必ず活かされるはずだ。





## 永井 宏明選手

決勝に向けたセット変更でバランスも少し改善し、着実に順位を上げていく中での接触によるタイヤバーストは痛かったです。昨日のシフトトラブルに続き少し歯車がズレたレースウィークでしたが、開幕戦で厄落としが出来たと切り替え、次戦の富士は全力で良い走りをお見せしたいと思います。



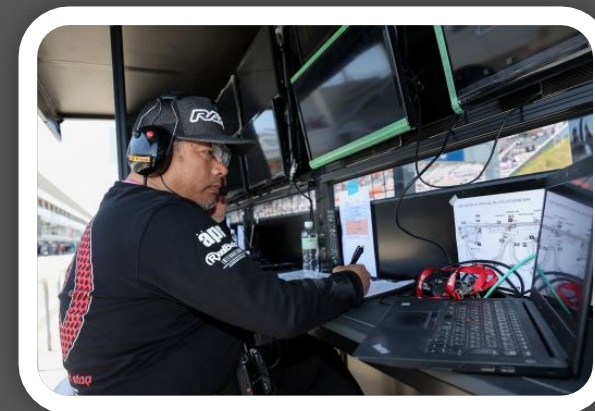
## 小林利徠斗選手

無線の調子が悪くコース状況がイマイチ把握できずの初レースでした。その中でも、レースの大半を走らせていただきSGTの難しさや、戦い方や、タイヤマネジメント等、しっかり勉強できましたので確実に次につながりました。一つ一つの経験を生かして早くTEAMに貢献できるように致しますので次戦も応援よろしくお願いいたします。



## 織戸学選手

想定以上の気温と路面温度に惑わされた週末でした。今回は後方支援に徹してTEAMを支える役目で色々ありましたが少しは流れを作れました、その中でも、初レースの小林選手に沢山の経験を積んでもらえたことは収穫であり、今後のパフォーマンスに期待が持てました。次戦は3名体制で挑みドライバーとしても全力で挑みます。30号車は、伸びしろしかない！ご期待ください。



## 金曾裕人監督

永井選手のペースは悪くなく、追い上げて『ここから』というときに追突されてレースが終わってしまいました。それならと、未来明るい小林選手に徹底的に練習してもらうことにしました。小林選手はスロースターターという感じですが、一度覚えたら忘れない。ひとつひとつ丁寧に教えて、着実に成長させる予定です。次戦は3時間レースとなり作戦も重要なので確実にポイントを獲得するレースを組み立てたいです。